

伊藤漠仙先生選評



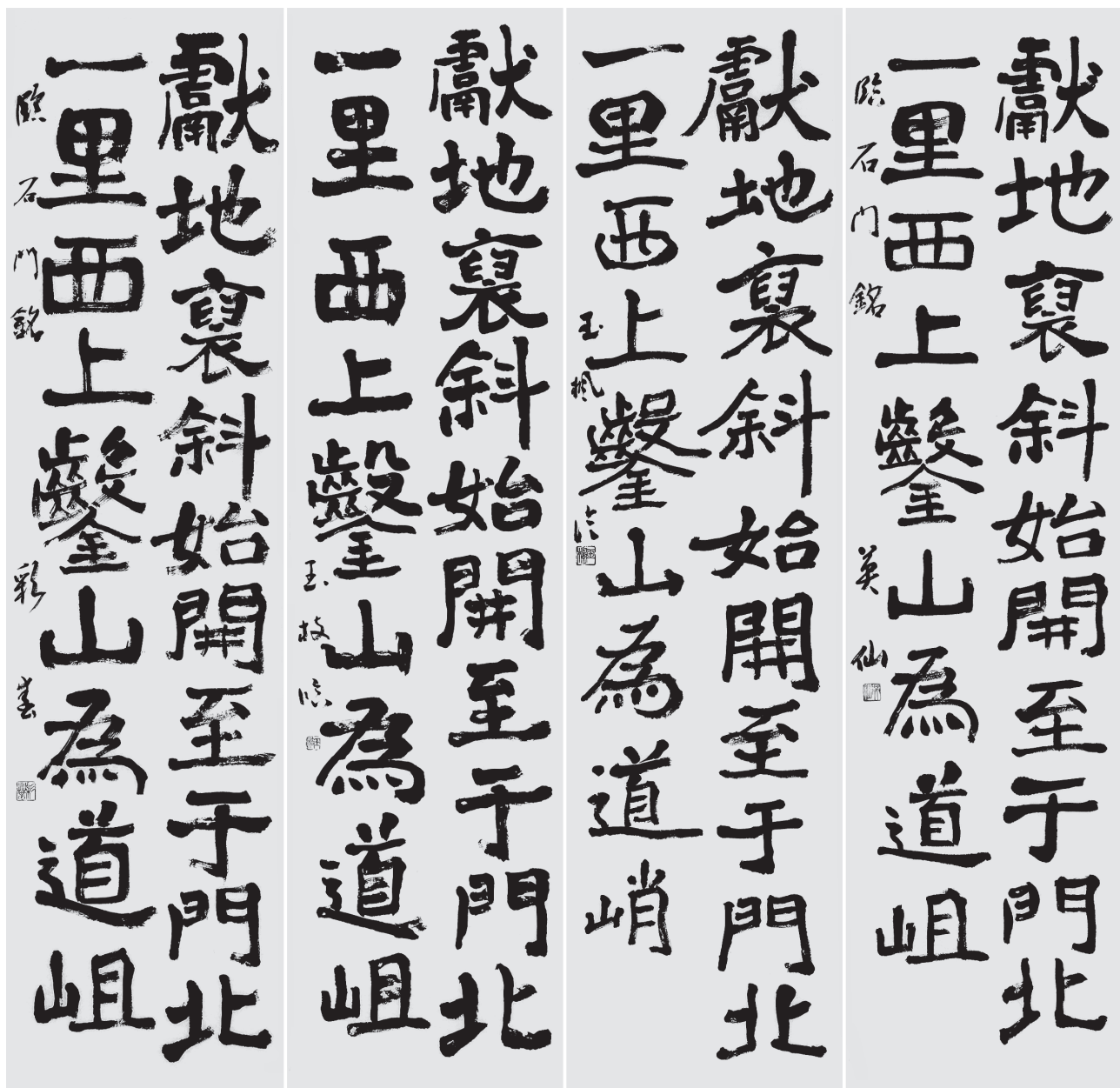
坂本千陽 推選
迫力があり、文字の造形力に優れた印象的な作品。「瓜」の渴筆、「地」の偏と旁の変化、平仮名の形体等、作品効果を上げていて、章法も抜群です。

大友麻美 推選
何ともいえない穏やかな感じのする作。平仮名の表現力と漢字の調和が自然で、申し分ありません。童心に帰る様な、純粹な雰囲気があります。

中務安紀 推選
全体の配置、バランスに秀でた秀作です。文字の瘦肥、潤渇、大小の変化が自然で、山頭火の句に合った作品づくりが魅力ですね。濃墨も良いでしょう。

井出翠風 推選
一目見て、あつと驚いた作品。二行に書かれた落款迄の作品構成力が素晴らしい。強さを強調した、メリハリの利いた逸品です。平仮名の渴筆が効果的です。

葛西玄涛先生選評



大西 英仙 推選
無駄な動きを省いた簡素な線が、伸びやかに拡がっています。静寂な空気が溢れています。大自然の中に存在していたことまで、忠実に臨書し、表現されています。

宮路 玉楓 推選
拓本に見られる文字の傾きを少し取り入れながら、文字の中心を揃えて安定した構成となった。ゆつくりした筆運びで、作者の気持ちを伝えた細めの線に感動。

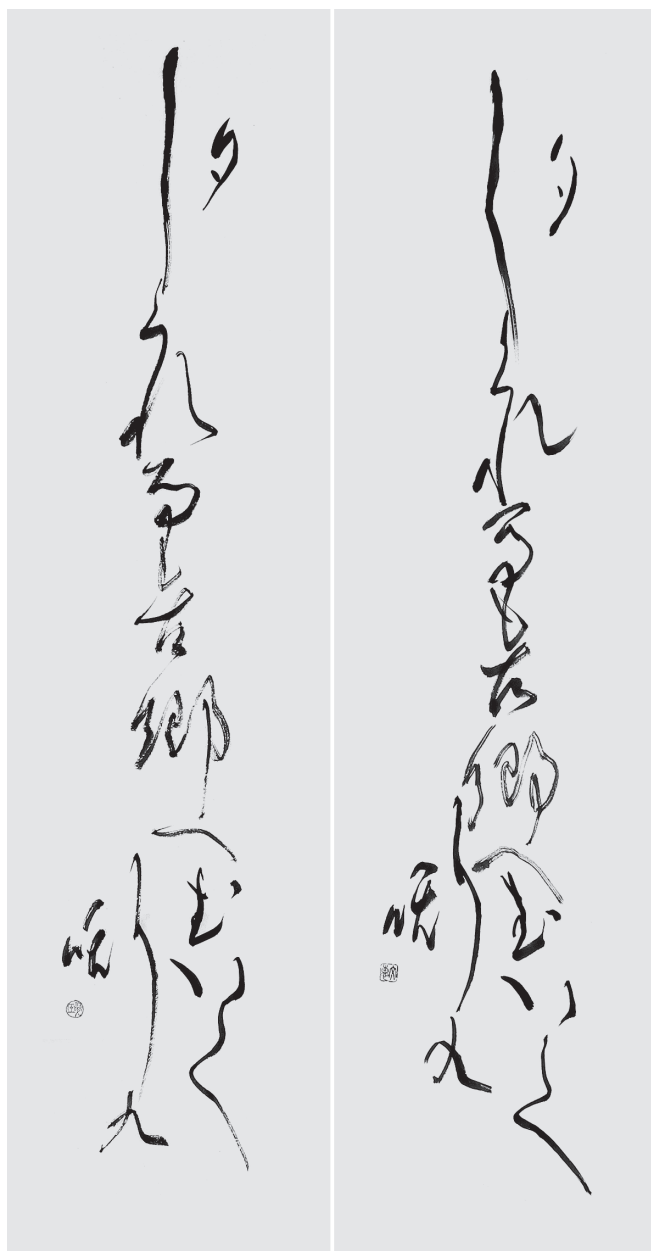
隅田 玉枝 推選
藏鋒の深さを変えることで線の軽重に変化をつけて、それぞれの文字に命を吹き込んだ。不自然になりがちな主題に運筆を遅くして、思考を深めながら解決した。

川畑 彩春 推選
渴筆の線を多めにし、洪みのある玄人受けの良い作品です。文字の大小の変化を激しくして魅力を増大させ、創作として一般の評価をも高めた。二重の魅力あり。

佐賀道子先生選評



露崎桂子先生選評



久世晃子 師範
凛として清々しい作。間と墨の推移よく余白が美しい。更に後半二行の、穂先の弾力を活かして一気に筆勢よくたたみ込んで行く連綿線が光っています。

吉村 都 準六
やや小粒ながら和泉式部の特色を捉えた筆法で字形とリズム感良好です。更に、筆圧と潤渇の変化を加味すると立体感ある作になるでしょう。

中野八重子 五段
古筆への学びの深さの窺える作。転折等の要所の筆遣い見事で意志力の漲る筆勢。特に後半三行の紙面に切り込む勁さとリズムに魅せられます。

下川庸子 師範
しなやかな流れの中にキリリと紙に食い込む弾力の筆線が魅力的。緩急のリズムも心地よく、研究度の色濃い気品ある臨書作となりました。

大鈴佐智子 四段
筆圧の変化よく伸びやかで明るい張りのある筆線に好感。文字の大小・疎密の変化等に配慮すると、間が更に美しくなるでしょう。

市来 みち子 推選
迷いのない運筆は、温和で淀みなく流れ、穏やかな心地良さを感じる作です。流れにもう少しゆらぎがあると、さらに魅力ある作となるでしょう。

工藤文恵 推選
字間せまく、次の線への筆意に迷いない書きぶりは、流れに乗って小気味良さを感じます。躍動感あり、楽しさが伝わりますが「嘶九」の位置に一考を。

赤富士北祭先生選評



瀬谷公子 師範
堂々とした筆の
まえから、ゆつた
りと書き進めるそ
の心境の高さに敬
服する。豊かさと
温か味がある緒遂
良の書の臨書とし
て優れた作である。

伊藤紅祥 準師
画数が少ない二文
字を半紙に収める
のは意外と難しい
が、この作は最後
まで気をゆるめず
に書き収めたところ
がよい。落款も
手慣れている。

二見舞千 八段
他の作より小粒で
あるが、遠い所か
ら起筆を意識し、
又遠くに抜筆され
てゆく筆の動きが
見事である。線に
厚みもあり風格が
ある臨書作品です。

平井あや子 六段
雁塔聖教序がもつ
線の伸びやかさ、
呼吸の長さが加わ
り、充実した紙面
となった。細めの
線に弾力性があり
変化を加えた意欲
的な作である。

近藤澄恵 準六
原帖をどのように
とらえるかは、そ
の人の臨書歴にも
よる。この作は孟
法師碑のような骨
格の強さや豊かさ
を感じさせる魅力
的な作となった。

富田翠心 三段
細めの線で原帖を
とらえた作。暢達
した筆線で、次々
と繰り出される線
の響き合いもよく
明い作。この方
のように唐楷書を
臨書する力を身に
つけたいですね。

白澤里奈 師範
原帖の字形もよく
観察して書き進め
た作。要所の強い
筆勢にハツとさせ
られるが、小書き
もリズムにのり安
定感があり、流石
師範の作品である。

青木榮俊 師範
鵬亭先生の範書を
参考にしながら落
筆高く、線にあた
たか味を表現した
作。豊かさに富み
卒意の書の面白さ
を遺憾なく表現し
た作品です。

桜井信吉 準八
墨をよくのせて、
リズムに乗って書
き進め、大字細字
のコントラストも
美しい作。凛とし
た余白の、白の美
しさが作品に花を
添えています。

村上千晶 準八
灌頂記が持つ筆勢
の強さを表現した
作。大字も細字も
線に冴えがある。
落款も含めて作品
としての一体感が
見事な澀刺とした
作。

大西和江 準五
遅しい表現の中に
筆を捻転させるな
ど、変化をおりま
ぜた作。そこに、
情感のようなもの
を感じさせる。小
書きは字粒が大き
いが、伸びやかで
賛成する。

小林佳菜子 三段
字内空間をつめ、
明暗のはっきりと
した作。筆管が立
ち紙に食い込むよ
うな筆意に秀でて
おり、線の強さ、
立体感を生んだ魅
力的な作品である。